

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業 そら條路館口			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～	2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・創作は季節のものを取り入れ変化をつけている。	・お子様が1年を通して季節や行事を感じられるメニューを提供している。 ・各お子様が平等に作成できるようシンプルなメニューを提供している。個人だけの作成ではなく、お子様全員で作成する集団作成物も提供している。	・今後は職員とお子様で行う「こども会議」の中でお子様のやりたいことを取り入れていく予定。
2	・余裕のあるスペースがありお子様たちが広々遊べる。	・必要最低限の物品以外はおかず整理整頓を常に心がけている。	・今後も引き続き整理整頓を心掛ける。
3	・お子様も参加する施設主催の大規模な夏祭りやクリスマス会を開催している。	・お子様も企画、装飾物作成に関わるため、普段あまり関わらない人たちとも関わる事ができている。 ・来客や他事業の利用者様たちの前で発表する機会を設けている。	・来年度はお子様为主役となり開催する「こども会議」を有効活用したい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・元々児童活用動の場所ではないため死角になる場所が多く安全面に難あり。	・左記に同じ	・今後は家具の設置場所などに工夫し限りなくリスクを少なくする努力をする。
2	・業務改善の目標設定段階が見えない。 ・PCDAのPLANばかりでその他が機能していない。	・勤務体系の兼ね合いもあり職員全員が顔を合わせて打合せする機会を設けることが難しい。	・今後は共有ノート等を活用していく。
3	・創作活動は定期で行えているが、来館されるお子様全員で参加できる集団療育プログラムが少ない。	・障害の程度、年齢、下校時間などを考慮すると全員で決まった時間に行える集団療育の立案が難しいため、達成に至っていない。	・今後は数人単位で小グループを作る必要があると思われる。